

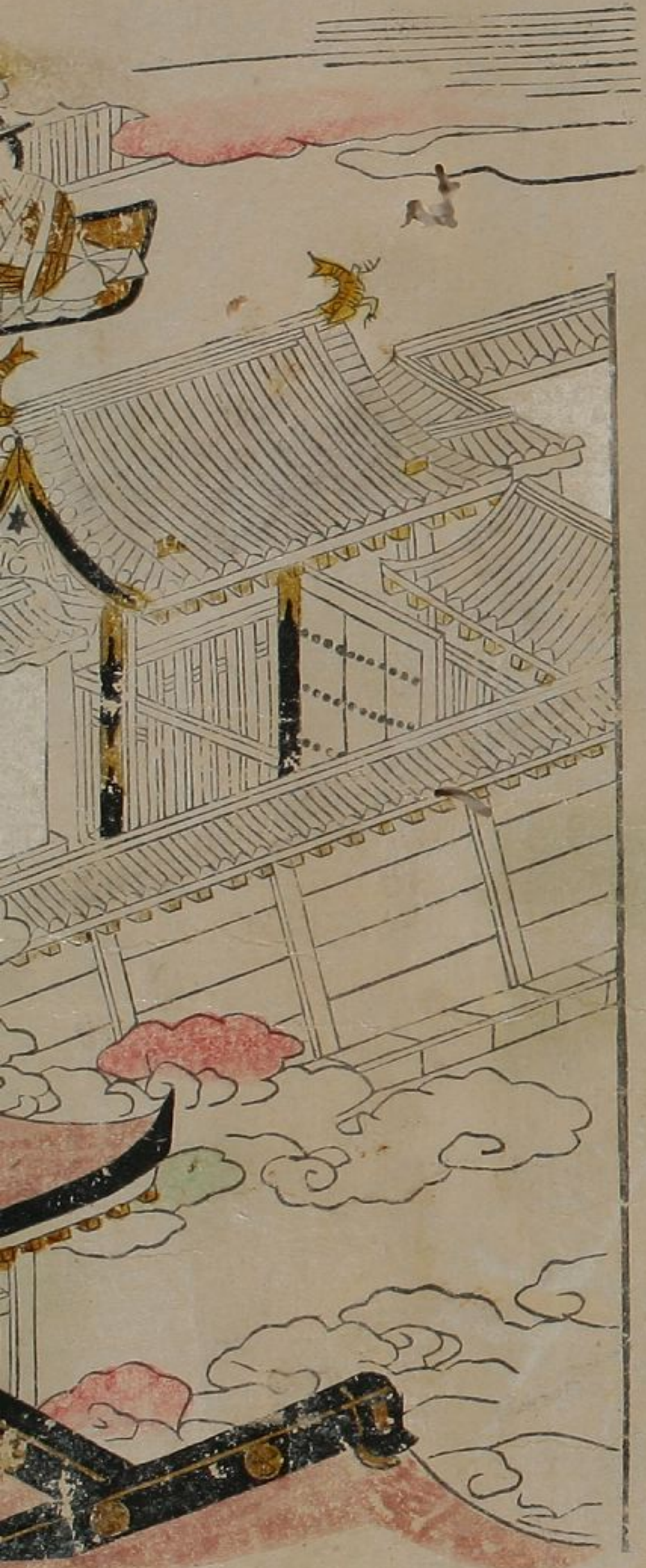


- 一 清車の見へ世中一考ふんましは使し事
- 一 清車九箇此改身事

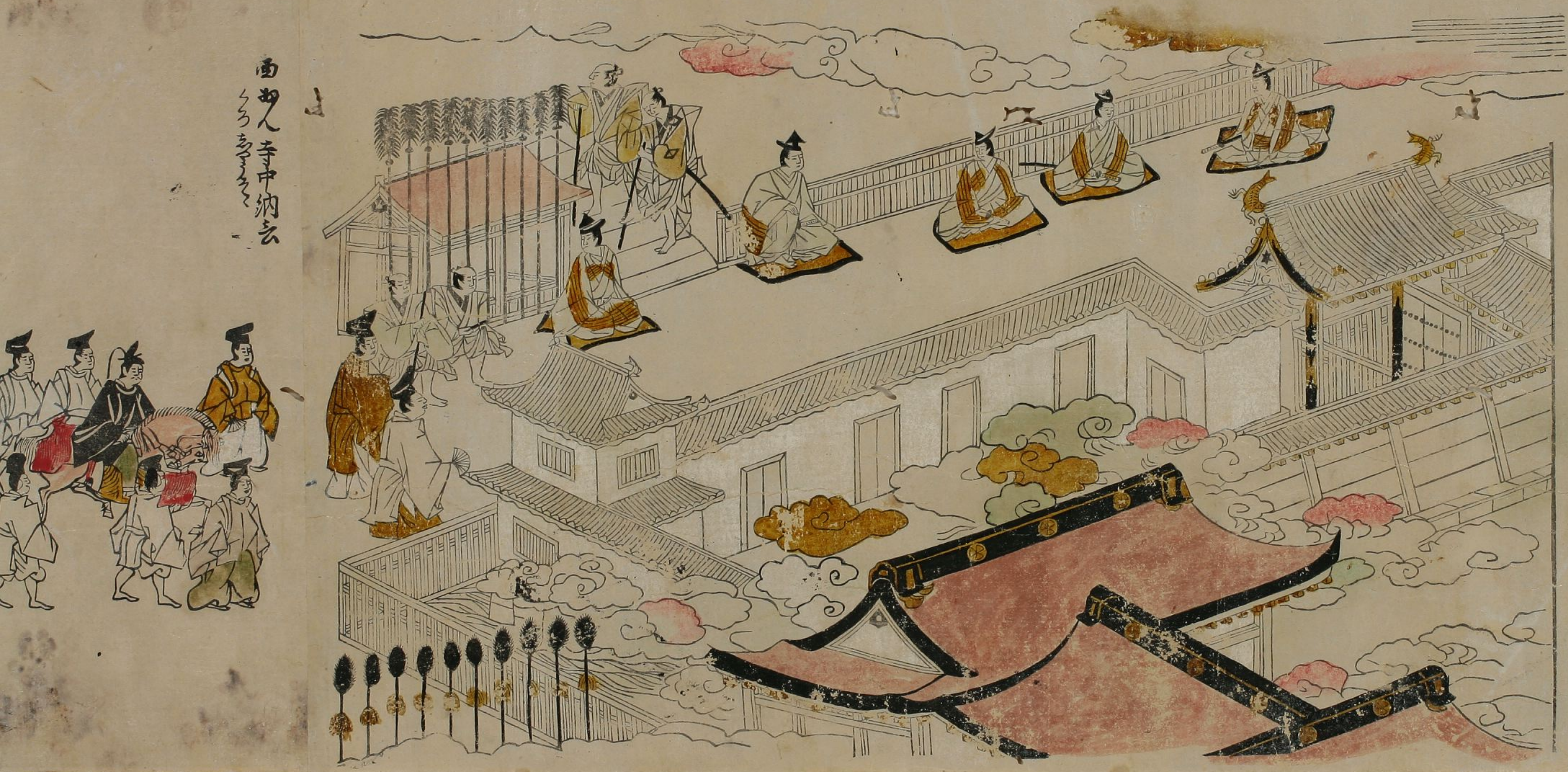
寛永三年九月六日

清車幸 二条真入の幸

そまひさくく此天部りあうく乃地をいまあて
 くらまのくく此代の年一月とよそつとりの人とも
 うれまうてんたうあの人まらんまわうらんむ
 天五うまらん急のれ今うりゆこるまきせのちも
 百十代せのう二ふ二百七十八てうての乃まうり
 こまのまきのかつこく人もまわうらん乃所とめハ
 妻乃案のちまうせの今まをまわいりともまらと
 此こある人をまわいあの子あははまうり
 さきのせの清車在大臣源秀忠云
 同大臣源家光云 是うひりこるゆへに國家あん
 せん回ういおたやうりまうりこくう一美ふ
 よりゆうま成うりあうまきまをせめすこま
 とひらひ天氣をゆゆりまわうこるうく美とん
 二条ていし備ふまの清車とゆへあまうんわのむを
 けうまめまこくの人あまきてもそのこまわい
 ままかくとてゆまのりまうりあめたきこゆ
 此まとのまあり



西御入寺中納言
くろくち



せん何しはたき
よりぬるま成るるのあつてまきをせめすくま
まひらひ天気をぬれゆるりまわうこころあつてまきと
二条ていよ浦おきの後水とゆゑあまうんわのむを
けくまめまきとまの人あまきてもそのまうわい
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと



西町人寺中納云
くろきまきま



あつし

中、西門中納云

月



張大丈

あつし

月



あつし

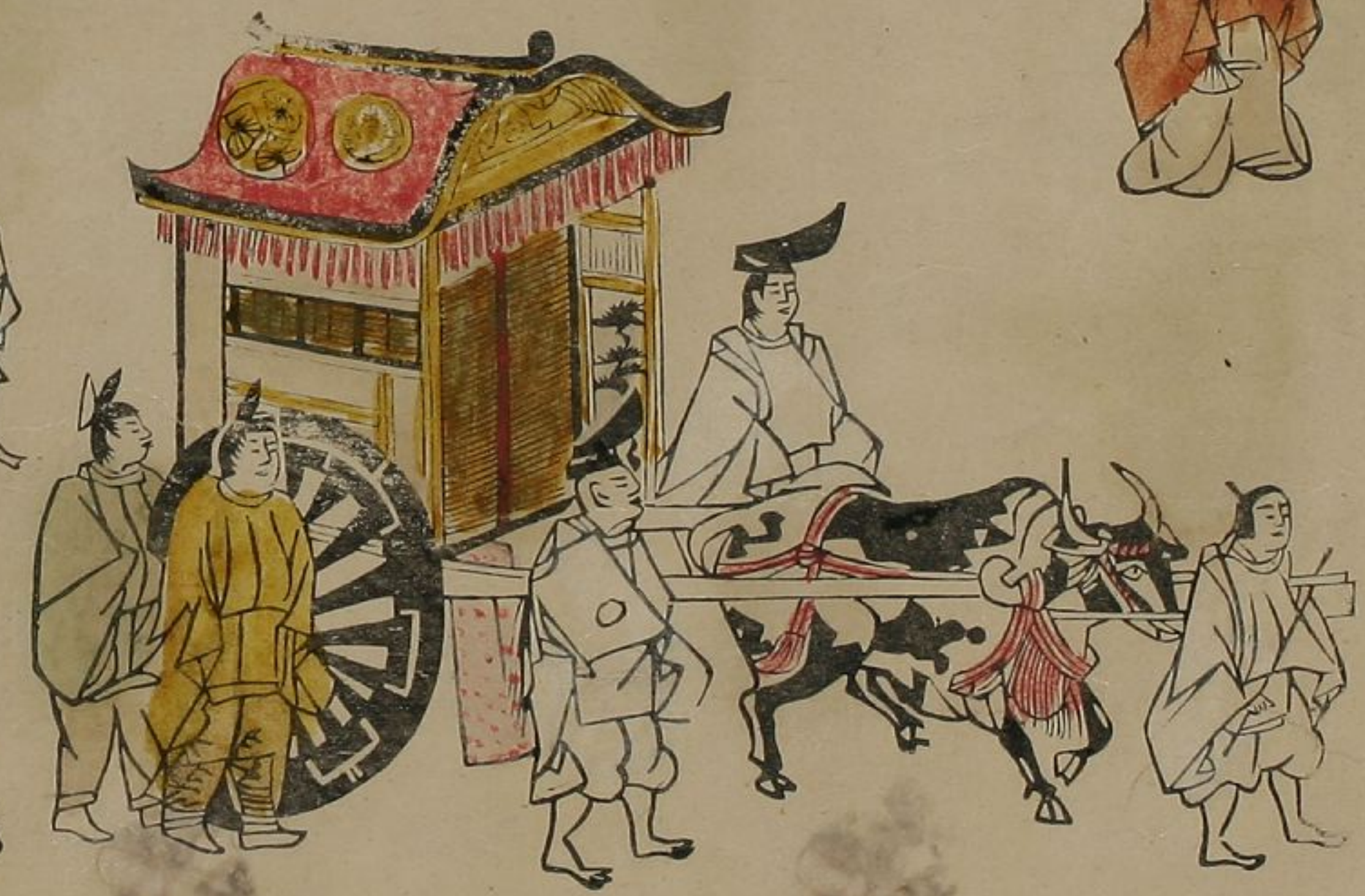


後天丈
ありまき



月

女一乃美抄



判官
あまのり
るまのり
もくろのり



女二の美抄



女二の文控



中文控



地下衣の車一人



非花人三誘

あつれいせき



同花人三誘

同



金指花人



うすいゆ



あつたしんき

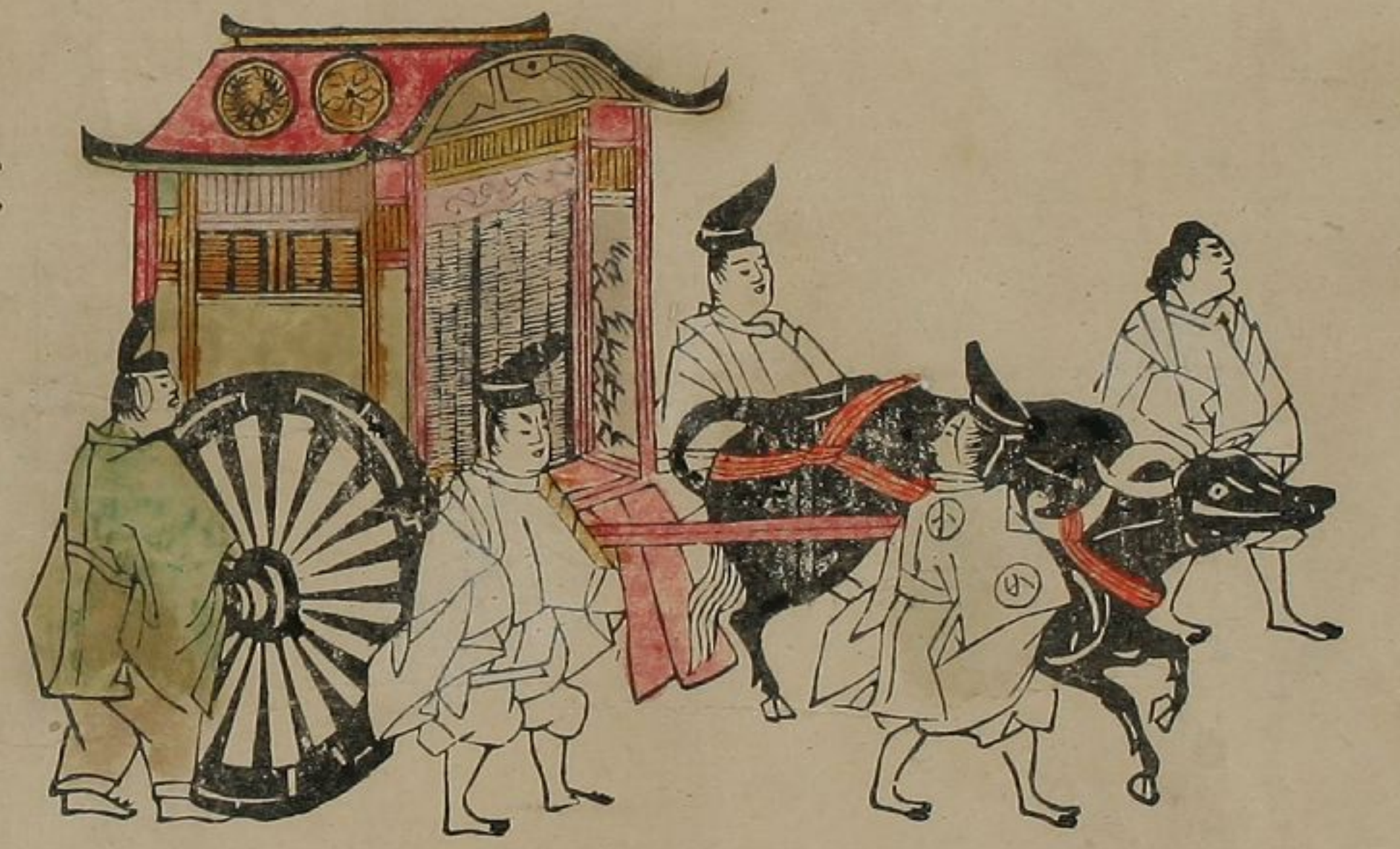
あつたしんき



あつたしんき



女陪扱



あつたしんき



あつたしんき



あつたしんき



あつたしんき



あつたしんき



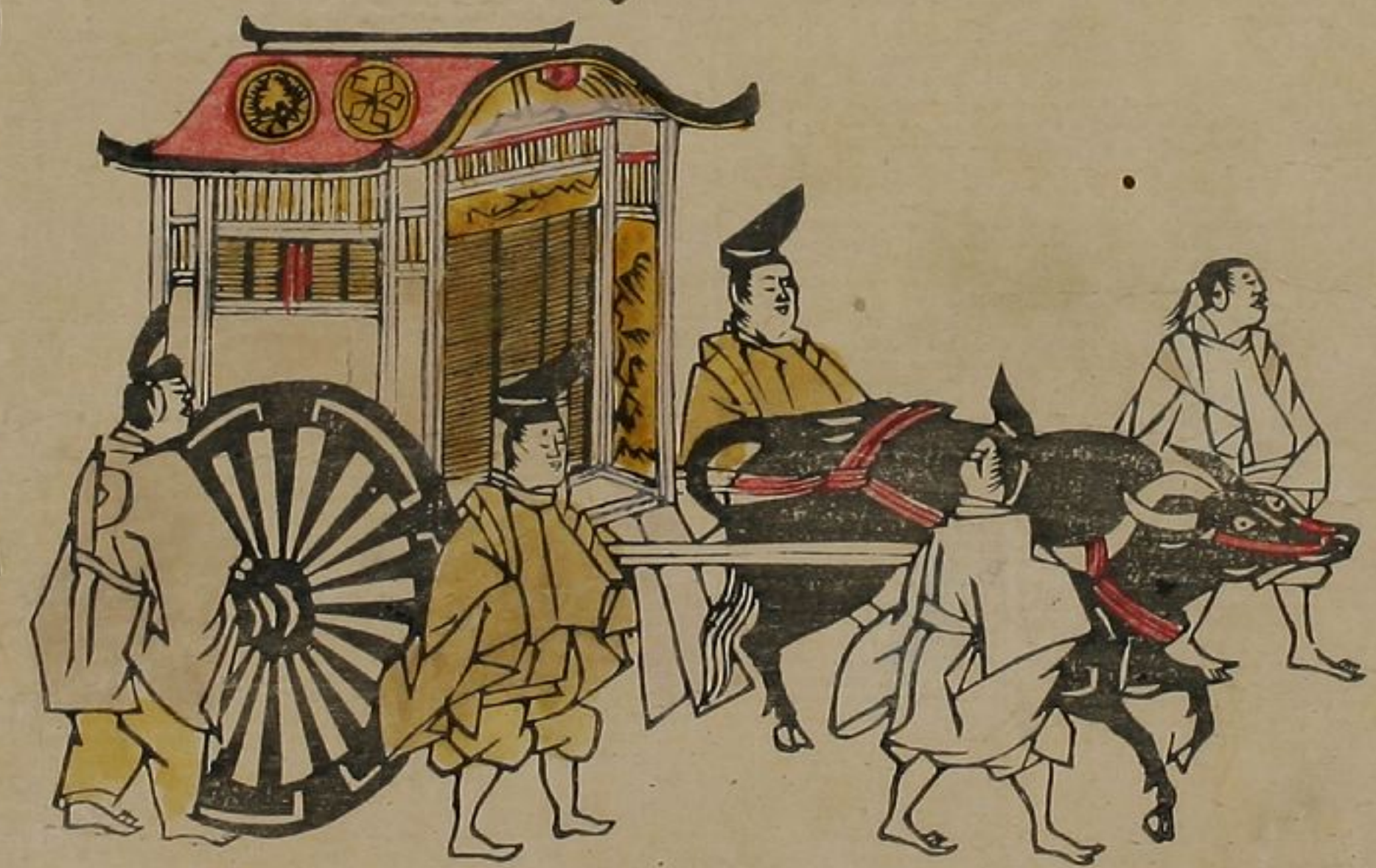
世毎判友
くろきき



判官
あきたま
馬副
えくく二人
うさわり



右長
車
女中方



判友
あきたま
世毎判友



び車
内
えん



判官
あつら
横右内前



判官
あつら
び車内前
つらと右のまう
乃あまを
女中



判官

あつら



判官
あつら
この車右前



判官
あつら



この車右あ月



判官 あつたしやうとく

車乃女中切と云

つ連を右れるうんれあふ
あつた

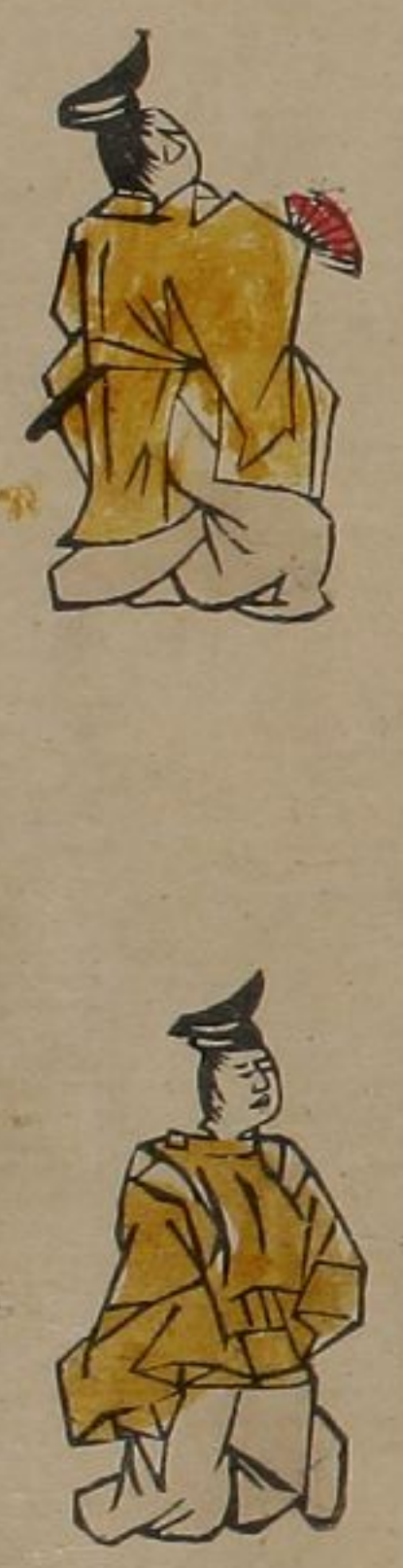


判官 あつたしやうとく



はは車の女中方

つ連と右乃長と



利皮
あまのりとも



はな車の女中方

りつ連とも右乃長

れところろ

あつた



下西八郎

うかくめん八郎



きん

はちよちう

上らふ御侍

大さけ

あちこ一人

こんまけもの





きんり

ゆちよちうの
上らふ御座り候

大さげぬ

あちこ一人

こんまげとの

大さうんまげぬ

新大納言ぬ

あちこ三人

車

ひうけーとの

中あいーぬ

あちこ一人

えんさり

なうーあま
ま色ぬうち

くちのまやうぬ

いよとの

あちこ二人

あーりゆ

まじうとの

いせとの

たりほとの

まをほけとの

うねあみ人のうち

こおちい一人

うねめ一人

ほきの
おまへあま

あま一人

あちこ三人

日 いけの一人

水持志二人

たすへ一人

とら二人

女あめ一人



志を成すもの

うしろめ人のうち

と おちい一人

上 うしろめ一人

はきもの ちまみあき

あき一人

日 はん三人

日 いざの一人

水 楊志二人

たすへ字人

とり三人

女 ちやん

下 ひのりき二人

け 外水一きほ一毎五人

上 中下

合 三十三人

あ のりのおらこせん

右 長二十回らぐう

けりあーサ一ちやん

黒めり十五丁



中 交振

女 中 方

すのりものうち

車 橙大納言

日 志んたのあらん

日 みくまのりもの

日 梅小納言

日 せんーとの

ちうらふあうりーとのあみ

日 式部もの

一 交振大上らあ

長元 おろと水方同

二 交振水方のいそ

らあ

たしき同



車 橙大納言
 同 ちんちんかこん
 同 みくまひとの
 同 梅小納言
 同 せんーとの
 同 式納言



一 文振大上らふ
 長元 お阿と水方同

二 文蔵水のひそ
 一 文振小上らふ
 行一をのみおまん
 二 文換同

おちれ人
 車 御くおちの人同

同 ちわくおちれ人同

同 ちわくおちれ人同
 これより長え ねまき
 同 中らふ おやう
 同 ちこ
 同 おつじ
 同 ねらわ
 同 次とすん ちよ
 同 ちよ
 同 いね
 同 いちや
 同 子
 同 女あめ ら



同 さきやう
 同 中ねとの
 同 右向乃きけ
 同 ひことの



月 辰辰ら

娘文換え

一乃文きぬゆしん
すけとのみ
車 中務との

女院換 女中方

とらふ分

車 一位分

月 ふしきの小紙分

月 うての小紙との

月 こくろとの

月 ちちこ

月 中納言分

月 中らふ分

月 あせらとの

月 おおとの

月 水毛とら

月 侍返

月 さゆ文との

月 るんとの

月 老候分

月 能書分

月 うらんとの

月 さうとの

月 徳候との

月 和泉房

月 らんさうとの

月 なま

月 越分

月 おうの

月

月

月

月

月



ひす
ちよか
七
り
辰辰

右の内二十九人の車
 内 十一人の長
 内 修り十一人
 内 玉飾り十八人



これまた同
 ねす人五人



同 女三人

い介助一きう一五

十一人

合二十八人

このりりり一人

中門ちうあこんあ

右の内九人の車

内 十一人の長

月 修り十一人

月 玉飾り十一人

小神乃波方

えけおまへん くらあかり

あやい まのとの斗

そめい 下乃衣

女院扱元の上もあひ

以上



三条大納言

てんそう



三条大納言

てんそう



中院中納言

てんそう



随勢

めしたる



武家徳大寺十二騎

月徳大寺十二騎



物産人三騎
あまのりや
之れ人旅人



月三騎
月八旅人



直身三騎



右月方



右月方

直身三騎



武家徳大寺十二騎

月徳大寺十二騎

随方

あまたまき



右同方



右同方



通身三勝



通身三勝



物産人三勝
あつれん社人
あつれん社人



月三勝
月八社人



西運よりと家元



月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



あつれん社人
月



あつれん社人
あつれん社人



右の由依



せんちの
しんがし



らん丸
らん丸
らん丸



といわん寺
といわん寺



柳原
柳原



日中納
日中納



日野中納言
同



ひろゆい大納言
くろくさき



ひろゆい大納言
くろくさき



百野大納言
あまのこ



非花人二騎
あまのこ

あまのこ

松本内匠

あまのこ

あまのこ

非花人二騎
同

同

松本内匠



目取大納言
あはれ



非花人二騎
あはれ

尾花人
あはれ

松本内匠
あはれ



非花人二騎
あはれ

尾花人
あはれ

松本内匠
あはれ



あひう小海
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

月



あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

月



西丸人寺率お
あはれ

あはれ



あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

あはれ
あはれ



西めん寺率お
くろしき



せりり足そく

名念をく

白川ゆほ

浦辺ゆほ

花その

ゆほ

湯水岩

ゆほ

くけ

ゆほ

西り



あつしき

右系ゆほ

ゆほ

阿野ゆほ

あつし水の

ゆほ

小会ゆほ

伊そのゆほ

東勝池

やん
くろしき



漁大寺中お
くろしき



西洞院右率お
くろしき



浄土寺中納
くろしやま



西洞院右中納
くろしやま



みかせ中納
くろしやま



花山院中納
くろしやま



中納
くろしやま



花山院幸ね
くろしやま



河辻中納言

あつしやま



徳之丞

あつしやま

徳之丞
同



徳之丞

あつしやま

徳之丞
同



九条内大臣

くろしやま

あつしやま



徳大寺
あつ



同 徳大寺



一条右大臣
くろしき

枕右大臣



随勢
あつしき



強身
同



徳大寺
あつしき



同 徳大寺



枕右大臣



九条内大臣
くろしき

同



随勢
あつしき



強身
同



一系右大臣

くろしやま



枕右大臣



徳大寺

徳大寺



後身二階

後身二階



二系右大臣

くろしやま

わしやん
くろしやま
くろしやま
くろしやま



あせうし中納

あせうし中納



通身

あせうし中納

通身



あせうしの中
くろやま



あせうし

あせうしの中
くろやま



通

あせうしの中
くろやま



通身

あせうし



あせうし



あせうし



あせうし



あせうし



あせうしの中
くろやま

あせうし



長元十の丁
 修りこゝろ十二三
 長めり二三
 以上

此の筆は次才大町右の意あま
 かなといへともるすとおろや
 は物ま較かすのときまのう
 さびのしく筆台に毛およひの
 まやうらうらうれらんやあ
 くりきうほたんきせんらん
 ていげふはまきまてりけ
 うくあてあうまれそあり川
 のさんしきい金きんとりか
 さりまて海に筆たてい
 一やうんき筆たてい
 かりさあやうひらりきん
 して筆ううううううう
 てんまて毛ひくやらん
 らううやうれ筆遠空を
 毛うふいまあ人もう
 扱れくさくさやう海に
 くさおなさんされとも
 そのためお大筆あま
 りあうー我胡よ毛
 きうへきり

